

リスクと資金の準備

どんなときでも大丈夫?!



人は生きていく上でさまざまなリスクに直面します。あらかじめ預貯金をしたり、保険に加入したりすることで、リスクに備えることが大切です。公的保険（社会保険）の知識も欠かせません。リスクへの対応を怠ると生活破綻を招くこともあるので、しっかりとした心構えと準備が大切です。

その1 どんな生活上のリスクがありますか？

発生する可能性のありそうなリスクに (チェック) をしてみよう。

- 病気 () ケガ ()
- 火災 地震 風水害
- 交通事故 失業 盗難
- その他 ()

その2 あなたは自転車に乗りますか？ バイクや車を運転しますか(予定を含む)?

ここでは「加害者になるリスク」を考えます。自転車、バイク、車で歩行者にケガをさせる、死亡させるなど、他の人に被害を与え、高額な損害賠償額となった例を調べてみましょう。

自転車での加害事故の例

自動車での人身事故の例

その3 リスクに備える方法 ～ 保険もその1つ

リスクはなるべく防止・回避しましょう。しかし、防止・回避できない場合に備えて、あらかじめ預貯金をしたり、保険に加入したりすることも大切です。自分が入っている保険にをして、その内容を調べて記入しよう。

- 病気→ () 保険 保険者 ()
- () 保険 保険者 ()
- ケガ→ () 保険 保険者 ()
- () 保険 保険者 ()
- 火災→ () 保険 保険者 ()
- 交通事故→ () 保険 保険者 ()
- () 保険 保険者 ()
- その他→ () 保険 保険者 ()

*保険者とは、保険事故が起きたときに保険金を支払う者（保険会社など）。あらかじめ保険料を保険契約者から集める。

その4 病気やケガに備えて、自分の保険証を確認しておこう

保険の種類は？【健康保険・船員保険・国民健康保険・国民健康保険組合・後期高齢者医療制度】
(会社員、公務員) (船員) (市町村住民) (自営業) (75歳以上)

記号・番号	
被保険者(組合員)	
保険者(組合名)	

← 記入する必要はありません。保険証の現物を見て、左記の項目などを確認してください。

(参考) 病院の窓口での本人・家族の原則的な負担割合

年齢	0歳～小学校入学前	小学校入学後～69歳	70～74歳	75歳～
負担割合	2割*	3割	2割	1割、2割
			高所得者	3割

*無料または軽減している地方自治体が多くあります。

その5 現在の年金制度 ～ 空欄に適する語句・数値を入れて、まとめてみよう

- A. 国民年金は、() 歳から () 歳未満まで、全国民が加入する国民基礎年金制度です。
- B. 会社に就職したり公務員になれば、20歳未満（たとえば18歳や15歳）でも、() 年金に加入します。同時に国民年金（基礎年金）の第2号被保険者となり、2つの年金制度に加入します（手続きは勤め先の事業主等が行います）。従って給付は、両方（2階建て）から受け取ることができます。
- C. 20歳以上の学生で国民年金保険料が納められない時は、市区町村役場の国民年金担当窓口申請すれば、「学生() 特例制度」で、「猶予」してもらえます。猶予期間中にたとえばケガで障害を負った場合には、「未納」のケースとは違って、障害基礎年金を受け取ることができます（申請をせず、単に保険料の未払いを続けていた場合は「未納」となり、年金を受けることはできません）。
- D. 公的年金には、「老齢年金」「() 年金」「遺族年金」の3つの給付があります。
- E. 「老齢年金」の給付を受けるためには、() 年以上保険料を納めなければなりません。
- F. 国民年金だけ（自営業者）加入し10年以上納めた場合、65歳から「() 基礎年金」を生活している限り受け取ることができます。

(出典) 日本年金機構のホームページ掲載資料などから作成

その6 未来の年金制度について、あなたの考えをまとめてみよう